



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

1. 化学品(製品)及び会社情報

化学品(製品)の名称: 常温アスファルト混合物
 製品コード、番号:
 供給者の会社名称: 世紀東急工業(株)
 連絡先: 世紀東急工業(株) 製品事業部
 東京都港区芝公園 2 丁目 9 番 3 号
 電話番号: 03-5470-1742
 FAX 番号: 03-5402-6868
 推奨用途及び使用上の制限: 道路舗装補修、常温で使用する(加熱して使用しない)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類区分

健康有害性:	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性及び刺激性	区分 2 (シンボル: 感嘆符、注意喚起語: 警告)
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 2A (シンボル: 感嘆符、注意喚起語: 警告)
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分外
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2 (シンボル: 健康有害性、注意喚起語: 警告)
	吸引性呼吸器有害性	区分外
環境有害性:	水生環境有害性(急性)	分類できない
	水生環境有害性(長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示:





安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

注意喚起語:	警告
危険有害性情報:	皮膚刺激 強い眼刺激 長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ(呼吸器)
注意書き:	
安全対策	取扱い後は手をよく洗うこと。 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。 粉じんを吸入しないこと。 使用前に取扱い説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
応急措置	皮膚についての場合: 多量の水で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当を受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当を受けること。 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
保管	水分のない場所に保管すること。
廃棄	内容物/容器を国/都道府県/市町村の法令に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名または一般名	常温合材
別名	全天候型高耐久性常温アスファルト混合物
成分および含有量	ストレートアスファルト 2.1~4.2% 脂肪酸 2.4~4.8% アルカリ性添加剤 0.9~1.7% 植物繊維材 0.1~0.5% 碎石、砂などの天然骨材 90%以上 性状改善剤 0.3~0.6%
化学特性(化学式)	特定できない
官報公示番号	ストレートアスファルト 9-1720(化審法)、12-189(安衛法) 脂肪酸 2-608(化審法)、2-609(安衛法) 性状改善剤 非公開



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

CAS 番号	ストレートアスファルト	8052-42-4
	脂肪酸	67701-06-8
	アルカリ性添加剤	65997-15-1
	性状改善剤	非公開

4. 応急措置

吸入した場合:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等でおおい、保温して安定を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。 呼吸が止まった場合および呼吸が弱い場合は、衣類を弱め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。 ストレートアスファルトは加熱時に硫化水素や一酸化炭素を発生する場合がある。加熱溶解時に発生するミスト/煙/蒸気/ヒュームを吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる場合がある。したがって、汚染の可能性がある場合からはできるだけ早く移動すると共に、そうした場所に入る場合は空気呼吸器を装着する。
皮膚に付着した場合:	加熱融解したアスファルトが付着した場合、大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着したアスファルトは無理に取り除かないで医師の手当てを受ける。
眼に入った場合:	清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合:	無理に吐きださずに、速やかに医師の診断を受ける。 口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗うこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候:	ストレートアスファルトは加熱時に硫化水素/一酸化炭素を発生する場合がある。 硫化水素は、ばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400~700ppm、30分~1時間のばく露では、急性死または後死が考えられ、700ppm以上の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸系統の麻痺を起こす。 一酸化炭素は、中毒の目安として、<300ppmなら影響は小さく、<600ppmで軽度の作用があり、<900ppmで中ないし高度の影響がある。1000ppm以上になると危篤症状が現れ、1500ppm以上では生命の危険に及ぶ。
ばく露またはばく露の懸念がある場合:	気分が悪い時は医師の診断および手当をうけること。

5. 火災時の措置

消火剤:	霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、砂が有効である。
使ってはならない消火剤:	棒状注水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性:	現在のところ有用な情報なし



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

特有の消化方法: 火元への燃焼源を断つ。
周囲の設備等に大量の水を散水して冷却する。
火災発生場所の周辺には関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護: 消火作業は風上から行い、必ず適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 作業の際には消火保護具を着用する。

環境に対する注意事項: 下水道、河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないように注意する。
(本製品は、水分と反応して硬化するため)

除去方法: 危険でなければ飛散の無いようにできるかぎり回収する。

二次災害の防止策: 漏洩時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で速やかに関係機関に通報する。
消火用機材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 使用前に水分との接触を避ける。(本製品は、水分と反応して硬化するため)
炎、火花または高温体との接触を避けるとともに、みだりにミスト・蒸気を発生させないこと。

接触回避: 使用前に水分との接触を避ける。(本製品は、水分と反応して硬化するため)
『10. 安定性及び反応性』を参照。

注意事項: 眼、皮膚への接触を防ぐため、作業中は適切な保護具を着用すること。
眼に入る可能性がある場合は保護具を着用すること。
室内で取り扱う場合は換気に注意すること。
取扱い後は、手等をよく洗うこと。

保管

混触禁止物質: 水分との接触を避ける。

安全な保管条件: 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質から離して保管する。
換気の良い場所で、未開封の状態での保管すること。

安全な容器包装材料: 専用袋を未開封で使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度: 労働安全衛生法 作業環境管理濃度 (2012年4月改正)
1ppm(硫化水素として)(アスファルトの成分情報)
1.36mg/m³(アルカリ性添加剤の成分情報)



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

許容濃度:

日本産業衛生学会(2013年度版)

勧告値なし(ストレートアスファルトとして)(アスファルトの成分情報)

5ppm(硫化水素として)(アスファルトの成分情報)

50ppm(一酸化炭素として)(アスファルトの成分情報)

1mg/m³(TWA)(第2種粉じん 吸入性粉じん)(アルカリ性添加剤の成分情報)3mg/m³(TWA)(鉱油ミストとして)(性状改善剤の成分情報)

ACGIH(2014年版)

時間加重平均(TWA)値

0.5mg/m³(Asphalt fume as benzene-soluble aerosol)(アスファルトの成分情報)

1ppm(硫化水素として)(アスファルトの成分情報)

25ppm(一酸化炭素として)(アスファルトの成分情報)

1mg/m³(アルカリ性添加剤の成分情報)5mg/m³(鉱油ミストとして)(性状改善剤の成分情報)

短時間ばく露限界(STEL)値

勧告値なし(Asphalt fume as benzene-soluble aerosol)(アスファルトの成分情報)

5ppm(硫化水素として)(アスファルトの成分情報)

保護具

呼吸用保護具:

状況に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。

換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具:

状況に応じて耐熱性及び耐油性保護手袋等を着用すること。

眼の保護具:

状況に応じて保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具:

必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的性状、形状、色):	固体、黒色
臭い:	情報なし
臭いの閾値:	情報なし
pH:	情報なし
融点・凝固点:	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲:	情報なし
引火点:	210℃以上(クリーブランド開放式)(バインダとして)
発火点:	情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル=1):	情報なし
燃焼性(固体、気体):	適用されない
燃焼又は爆発範囲の上限・下限:	情報なし
蒸気圧:	情報なし
蒸気密度(空気=1):	情報なし



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

比重(密度):	情報なし
水に対する溶解性:	不溶
n-オクタノール/水分配係数:	情報なし
自然発火温度(発火点):	情報なし
分解温度:	情報なし
粘度(粘性率):	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性:	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。 水と反応して安定固化する。
安定性:	水と反応して安定固化する。
危険有害反応可能性:	情報なし
避けるべき条件:	加熱しない。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。
危険有害な分解生成物:	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

11. 有害性情報

急性毒性	急性毒性は低いと考えられる。
経口:	ラット LD50>5000mg/Kg に基づき区分外とした。2)
経皮:	ラット LD50>2000mg/Kg に基づき区分外とした。2)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性:	ドレイズテストの結果、刺激性なし。2)
眼に対する重篤な損傷性 又は目刺激性:	ドレイズテストの結果、軽度の刺激あり。ただし、評点から区分外と判定できる。2)
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	(呼吸器感作性)情報なし。 (皮膚感作性)モルモットに対する試験において陰性。3)
生殖細胞変異原性:	情報なし
発がん性:	IARC は道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ「アスファルト・エミッション」による職業ばく露をグループ 2B(人に対して発がんの可能性があると)に分類している。4) なお「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に係る作業」、「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質および気体、および気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」、「職業ばく露」を「作業者が1日に4~9時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。 EU CLP 規則(1272/2008/EC) 付属書VI Table 3.1 および Table 3.2 に記載されていない。(有害性として分類されない)(アスファルトの成分情報)
生殖毒性:	情報なし



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

- 特定標的臓器毒性(単回ばく露):** 黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを3ヶ月ごとに200mg皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。5)
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露):** アスファルトヒュームの吸引試験(マウス、6~7h/日、5日/週で21ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。6)(アスファルトの成分情報)
- 吸引性呼吸器有害性:** 動粘性率が8000mm²/s以上であるので区分外。
- その他**
- 加熱された状態で皮膚や目に触れると火傷になる。
- 高温時に発生するガスを吸入すると嘔吐およびめまいを起こすことがある。
- 加熱時に硫化水素/一酸化炭素を発生する場合がある。
- 硫化水素は、ばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400~700ppmでは、30分~1時間のばく露で急性死または後死が考えられ、700ppm以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起す。3)(アスファルトの成分情報)
- 一酸化炭素は、中毒の目安として<300ppmなら影響が少なく、<600ppmは軽度の作用があり、<900ppmで中ないし高度の影響がある。1000ppm以上になると危篤症状が現れ、1500ppm以上では生命の危険におよぶ。3)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性): 情報なし

水生環境有害性(長期間): 情報なし

残留性・分解性: 残留性

アスファルトは常温では蒸発しないが、加熱する際にヒュームを発生する。発生したヒュームはただちに凝縮、沈降して土壤に吸着する。ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中ではアスファルトの分散性は乏しく、浮かぶか沈むかである。土壤中では移動しない。

生分解性

情報なし

生体蓄積性: アスファルトの構成成分のlog Kowは6以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際に、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水中生物の体内にとりこまれることは考えにくい。

土壤中の移動性: 情報なし

オゾン層への有害性: 情報なし

他の有害影響: 情報なし

環境基準: 情報なし



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物:** 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
その他関係法令の定めるところに従う。
- 汚染容器及び包装:** 容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

- 国内規制**
- 陸上規制:** 道路交通法 非危険物
- 海上規制:** 船舶安全法、非危険物
- 航空規制:** 航空法、非危険物
- 国連番号:** 該当しない
- 特別の安全対策:** その他法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

- 労働安全衛生法:** 表示対象物(通知対象物)
アスファルト、ポルトランドセメント(アルカリ添加剤)、鉱油(性状改善剤)
- 廃棄物の処理及び清掃に関する
法令**
- 道路交通法**

16. その他情報

- 引用文献:**
- 1) ICSC(2001)
 - 2) API「ROBUST SUMMARY OF INFORMATION ON ASPHALT」(2003)
 - 3) 後藤、稠ほか「産業中毒便覧(増補版)」医歯薬出版(1981)
 - 4) IARC「Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans Vol.103」(2013)
 - 5) IARC「Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans Vol.35 SUPPLEMENT 7」
 - 6) IPCS「Environmental Health Criteria 20, Selected Petroleum Products」



安全データシート (SDS)

製品名: αミックス

その他参照データ

- NITE GHS 分類公表データ
- EU CLP Regulation, AnnexVI
- RTECS(2006-2011)
- ECHA C&L Inventory Database
- ECHA Registered substances Database”
- Robertet, Inc.の SDS
- 危険物、毒物処理取扱いマニュアル(海外技術資料研究所)
- 化学物質の危険・有害便覧(平成10年版)中央労働災害防止協会
- 化審法化学物質 改訂第5版 化学工業日報社
- 許容濃度の勧告 日本産業衛生学会
- EC 理事会指令「67/548/EEC」付属書 I「危険な物質リスト」
- 屋外作業等における作業環境管理に関するガイドライン
- 安全データシート(原料メーカー)

作成履歴: 2018年 9月 1日 新規作成

製品安全性データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有物・物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。